

めぐみの学校の子

めぐみの学校の子

めぐみの里の桜は、開花は早かったものの、見ごろの時期は少し遅くなり、スタートの日、今日になった。めぐみの里にある学校、恵田小学校は、9名の新入生を迎え、めぐみの学校の子は49名となった。



恵田小で学校運営に携わるようになり、感じたことは、「愛校心」「郷土愛」が大切だということである。

恵田っ子が、保護者の皆さんが、地域の皆さんが、そして、教職員が恵田を、そして、恵田小を大切に思う、誇りに思う気持ちが高まっていくことで、学校は魅力あるよい姿になっていくと思う。この気持ちを醸成していきたい。

恵田っ子が通いたい、保護者や地域の方が通わせたい、そして、教職員が勤めたい学校になるようにしたいと思う。そのために、これまでの魅力ある活動を大切にしながら、その年ごとに少しずつ改善を進めていく。さらに、新しい活動も取り入れていきたい。

恵田っ子は「めぐみの学校の子」だと考えている。恵田の「恵（めぐみ）」というだけでなく、本当の意味で、恵田の恵みを受け、恵まれ、そして、知恵を育み、成長して行ってほしいと願っているからである。

平成から「令和」へ。今年度は、「めぐみの和」をテーマに学校運営を進めていく。「和」を大切にしたい。

恵田っ子へ

めぐみの和（わ）

ないあさん、あらたさん、りょうたさん、りおんさん、ふうとさん、たいせいさん、みれいさん、はづきさん、まうさん、ご入学（にゆうがく）おめでとうございます。そして、二年生から六年生のみなさん、進級（しんきゆう）おめでとうございます。五月から、新（あた）しい時代「令和（れいわ）」がスタートします。今年度（こんねんど）は、新しくわかることが取（と）り上（あ）げられる年（とし）になることでしょう。

学校（がっこう）テーマを、めぐみの学校の恵田小（えだしょう）に、そして、恵田っ子（こ）のみなさんに、「和」の心（こころ）がいっぱいになるように願（ねが）い、「めぐみの和」としました。「和」には、「やわらぐ、おだやか、なかよくなる、こたえる、ませあわせる、日本」などの意味（いみ）があります。これらの意味（いみ）のような一年（いちねん）（いちねん）になることを願（ねが）い、このテーマにしました。



恵田小 校長室だより

平成三十一年四月五日

No. 124